

「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針



令和5年3月
飯能市教育委員会

目 次

1	「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針の目的	1
2	上位計画におけるホッケーの位置付け	1
	（1）第5次飯能市総合振興計画後期基本計画	1
	（2）第3期飯能市教育振興基本計画	2
3	取組状況（平成30年度～令和4年度）	3
	基本方針1 ホッケーのまちづくりの推進に係る体制の整備	3
	基本方針2 普及事業と競技環境の整備	3
	基本方針3 ホッケー競技のPR活動	4
	基本方針4 全国大会等の誘致と大会開催への支援	4
	基本方針5 安心安全な施設整備の研究	5
4	ホッケー競技の現状	5
5	今後の展望	7
6	「ホッケーのまちづくり」の理念及び基本目標	8
7	「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針	8
8	キャッチフレーズ	10
9	市内チームの紹介	11

1 「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針の目的

本市は、過去2回の国民体育大会の競技会場となったことを契機に、市内のホッケー競技団体の競技力が飛躍的に向上し、様々な全国大会等の会場にもなり、ホッケー競技が広く市民に認知されてきました。

現在の市内競技団体は、小学生から社会人までの各年代（カテゴリー）でのホッケーチームが盛んに活動をしている状況です。また、その全ての年代（カテゴリー）で全国大会へ出場しており、全国的にも「ホッケー競技が盛んなまち」として知られているところです。

こうした状況の中、本市では、平成24年から「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針を策定し、「ホッケーのまち飯能」の推進に取り組み、市内の小・中学校へ、スポーツ推進事業嘱託員を派遣して「巡回ホッケー教室」を実施するなど、その普及や強化を図っているところです。

今後も本市の市民スポーツであるホッケー競技を更に盛んにし、「ホッケーのまち飯能」を全国に発信することにより、郷土飯能を愛する人づくりと地域の活性化を図り、第2次飯能市教育大綱・第3期飯能市教育振興計画基本方針3の施策3で定める「スポーツを通じたまちづくり」を達成するため、「ホッケーのまちづくり」基本方針（以下「基本方針」という。）を策定するものです。

なお、この基本方針に係る具体的な取組（推進計画）は、別に定めるものとします。

2 上位計画におけるホッケーの位置付け

（1）第5次飯能市総合振興計画後期基本計画（令和4年度～7年度）

第5次飯能市総合振興計画後期基本計画の基本目標2「子どもの夢、未来をつなぎ市民の豊かな生涯を支援するまち」、基本施策2-3「豊かな生涯を築く生涯学習・スポーツの推進」、施策項目2-3-4「健やかなスポーツ・レクリエーションの推進」において、次のとおり主な取組を定めています。

《主な取組》

- 3 スポーツを通じたまちづくり
 - ④ トップレベルのスポーツに親しむ環境づくり
- 4 ホッケーのまち飯能の推進
 - ① 小・中学校での巡回ホッケー教室の実施等による普及活動
 - ② 全国大会等の開催によるまちの活性化



(2) 第3期飯能市教育振興基本計画（令和3年度～7年度）

飯能市教育振興基本計画の基本方針Ⅲ「生涯を通じた健康づくり、元気で活力のあるまちづくりのためのスポーツの振興」に取り組みます。施策1「スポーツによる健康増進・体力向上とスポーツ普及・啓発」、施策2「スポーツ施設の安全な管理運営と機能の充実」、施策3「スポーツを通じたまちづくり」の事業において、次のとおり具体的な取組を定めています。

《具体的な取組》

施策1 スポーツによる健康増進・体力向上とスポーツの普及・啓発

(2) スポーツ振興の普及・啓発のための情報発信

① 生涯スポーツ推進のための情報発信

トップレベルで活躍する選手や企業チームなどの情報を積極的に発信し、市民が試合等を観戦することや応援、サポートすること、「スポーツを観る・支える活動」でもスポーツに親しみ、楽しむことができる環境づくりに努めます。

施策2 スポーツ施設の安全な管理運営と機能の充実

(1) 都市公園運動施設の安全な管理運営とサービスの向上

② 施設の安全点検と計画的な修繕

定期的な施設点検を行うとともに、市民体育館、市民球場、阿須運動公園 ホッケー場、美杉台公園多目的グラウンドの人工芝などの施設修繕については、指定管理者や関係部署と協議し、修繕計画を作成し計画的な修繕に向けて取り組んでいきます。

施策3 スポーツを通じたまちづくり

(3) 競技力向上による地域スポーツの振興

① 「ホッケーのまち飯能」の推進

- ・ 関係団体と連携し、より高いレベルを目指す選手を指導できるようホッケーの知識、技術を有する指導者の養成、確保を図ります。
- ・ 小・中学生を対象とした普及事業、及びスポーツ少年団及び中学生の県外遠征試合等の強化事業などを支援します。
- ・ ホッケーが市民スポーツとして更に盛んになるよう、市内小学校での巡回ホッケー教室等の普及事業や「ホッケー通信」の発行などのPR活動に取り組みます。
- ・ 市民がスポーツを通して感動と活力が得られるよう、日本リーグや全国レベルの大会などホッケー競技の観戦機会の充実を図ります。

② 競技力の向上

市民のスポーツの意欲を高め競技力の向上を推進するため、全国大会以上の各種競技大会に出場するチームや選手に支援をします。

3 教育委員会としての取組状況（平成30年度～令和4年度）

「ホッケーのまちづくり」の理念及び基本目標の実現に向けた5つの基本方針におけるそれぞれの主な取組の達成状況は、次のとおりです。

基本方針1 競技団体や学校関係者等との連携強化

- ① 競技団体、学校関係者（ホッケーのまち飯能推進懇話会）と協議し「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針の策定や改訂を行いました。

【「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針「ホッケーのまち飯能」推進計画の制定】

制定・改訂年度	取組年度
平成24年度	平成25～29年度
平成29年度	平成30～令和4年度
令和4年度	令和5～9年度

- ② 競技団体及び学校関係者と連携し、学校の授業において指導員（競技者）を派遣しました。

【駿河台大学との連携】 ※ 令和元年度から指導員として学生の派遣をしていただきました。

実施年度	実施校		
	飯能第一中学校	加治中学校	美杉台中学校
令和元年度	64人	80人	—
令和2年度	64人	80人	36人
令和3年度	56人	40人	—
令和4年度	64人	80人	—

※ 派遣した学生の延べ人数

基本方針2 普及事業の推進及び競技力の向上の支援

- ① ホッケー競技を通して、郷土愛を育み、将来の飯能を担う人づくりを進めるため、小学校における「巡回ホッケー教室」の開催や、中学校の体育授業の必修科目としての指導など、ホッケー競技を体験しやすい環境を整備し、普及活動に努めました。

【小学校での巡回ホッケー教室の実施状況】

実施年度	実施学校数	実施回数	参加人数		
			男	女	計
平成30年度	13	109	208	172	380
令和元年度	11	86	187	158	345
令和2年度	10	67	217	159	376
令和3年度	12（全校）	101	203	166	369
令和4年度	11	99	276	223	499

※ 令和元年度（平成31年度）に東吾野・西川・吾野小学校が統合し、奥武蔵小学校が開校しています。

【中学校での巡回ホッケー教室の実施状況】

実施年度	実施学校数	実施回数	参加人数		
			男	女	計
平成30年度	8	144	478	411	889
令和元年度	8	144	494	378	872
令和2年度	8	138	444	433	877
令和3年度	6 ※3	86	309	330	639
令和4年度	7	147	466	465	931

※1 中学校での巡回ホッケー教室は、平成25年度から授業の必修科目となっています。

※2 令和2年度をもって名栗中学校が閉校し、令和3年度から原市場中学校に編入しています。

※3 新型コロナウイルス感染症の影響により、1校で実施ができませんでした。

- ② 「ホッケーのまち飯能」推進事業委託として、小・中学生の支援を飯能ホッケー連盟に委託しました。主に遠征費やホッケー備品の購入に充てました。

基本方針3 ホッケー競技のPR活動

- ① 公共施設での啓発及び市ホームページを活用したPRを継続して行いました。また、市内で活躍するチームや選手の情報を随時周知しました。
- ② ホッケー競技者の活躍などを周知し、夢や目標を持ってもらうため、競技団体と連携して「ホッケー通信」を随時発行し、市内の小・中学校へ配布しました。
- ③ 外部団体が主催するイベントに参加し、ホッケーの楽しさや面白さを知ってもらうきっかけを創出するため、競技のPRを行いました。



基本方針4 全国大会等の誘致と大会開催への支援

- ① 毎年、関東圏内中学校の1年生及び2年生を対象とした関東中学生新人ホッケー選手権大会を開催しています。
- ※ 令和2年度、3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しています。
- ② 令和3年度に第51回全日本中学生ホッケー選手権大会を「阿須運動公園ホッケー場」並びに「駿河台大学ホッケー場」で開催しました。全国から男女合わせて48チームが参加し、選手間の交流や競技力の向上に努めました。市からは、補助金の交付及び人的支援を行いました。

《参考》 大会開催時の効果として

大会を開催した場合には、選手・競技役員への宿泊、消耗品やパンフレットの作成、会場設営や動画配信を事業者へ発注したことで、経済波及効果が生まれ「まちの活性化」に取り組むことができました。

基本方針 5 安心安全な施設整備の研究

市内競技者の拠点である「阿須運動公園ホッケー場」の施設修繕については、令和3年度にゴールの購入及びスプリンクラーの保繕を行い、令和4年度に人工芝の張替え、防球フェンスの修繕、配電盤の改修、屋外トイレの整備などを行いました。



4 ホッケー競技の現状

《現在の市内スポーツ団体》

※ P11、チーム紹介有

種別	チーム名
小学生	はんのうホッケースポーツ少年団、あがのスポーツ少年団
中学生	美杉台中学校、はんのうジュニアホッケークラブ
高校生	飯能高校、飯能南高校、聖望学園高等学校
大学生	駿河台大学
社会人	ALDER 飯能、H・F・C-HANNO、飯能ホッケークラブ

※ 令和5年3月現在

《近年の戦績》

※ 年度毎の全国大会最高記録を記載。(ベスト8以上)

種別	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学生	-	ベスト8	-	-	-
中学生	-	-	-	ベスト8	ベスト8
高校生	-	ベスト8	-	ベスト8	ベスト8
大学生	ベスト8	ベスト8	ベスト8	ベスト8	ベスト8
社会人	ベスト8	5位	3位	優勝	4位

※ 令和2年度から、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった大会が見受けられました。

《埼玉県代表による国民体育大会への出場状況》

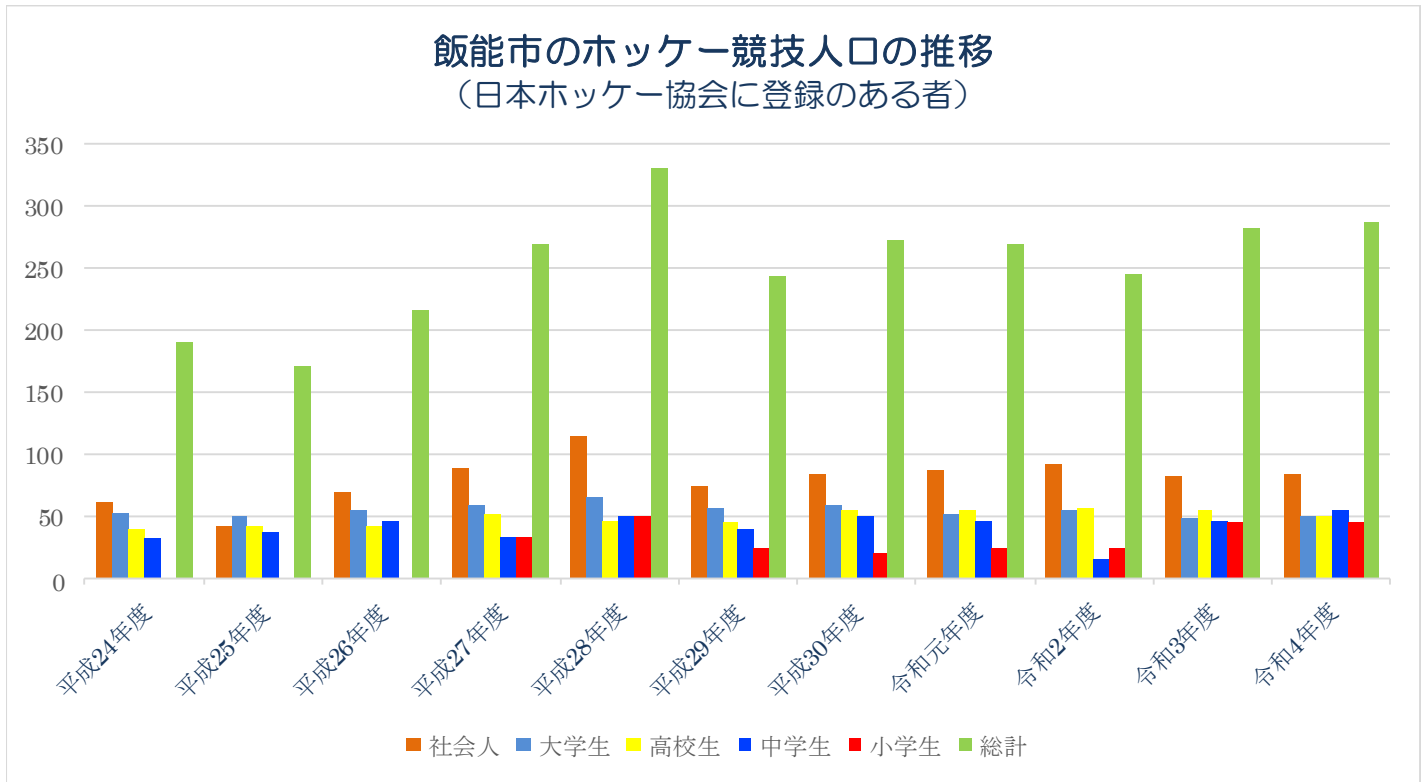
年度	種別	国民体育大会開催地
平成29年度	少年男子	愛媛県
令和4年度	少年男子・成年男子	栃木県

※ 少年男子、成年男子ともに市内競技団体から多くの選手を派遣しました。

平成24年度から本基本方針及び推進計画を策定し、事業を実施してきた成果として、全ての種別で全国大会へ出場し、功績を残しています。

《競技者人口の推移》

※ カテゴリー別で記載



※ カテゴリー及び男女別で記載

年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
社会人男子	45人	22人	49人	68人	88人	54人	63人	68人	70人	62人	49人
社会人女子	17人	21人	21人	21人	27人	21人	21人	20人	22人	21人	36人
大学男子	29人	25人	31人	37人	39人	32人	31人	27人	29人	28人	33人
大学女子	25人	25人	25人	23人	27人	25人	30人	26人	26人	21人	17人
高校男子	19人	21人	28人	33人	30人	26人	35人	39人	41人	41人	38人
高校女子	22人	21人	15人	19人	18人	19人	20人	16人	16人	15人	13人
中学男子	20人	23人	35人	19人	32人	26人	33人	29人	13人	23人	24人
中学女子	13人	14人	13人	15人	19人	15人	18人	19人	4人	25人	32人
小学男子	0人	0人	0人	27人	31人	12人	10人	13人	17人	22人	24人
小学女子	0人	0人	0人	7人	19人	13人	11人	12人	8人	24人	22人
総計	190人	172人	217人	269人	330人	243人	272人	269人	246人	282人	288人

資料：埼玉ホッケー協会より提供



5 今後の展望

本市では、各基本方針に基づき事業を実施しています。また、国や県の動向に沿い、連携した事業展開を図ることとしています。

これまでは、これらの事業の拠点となる「阿須運動公園ホッケー場」の経年劣化に伴い、「競技者」と「地域（市民）」をつなぐパイプ役としての機能を十分に発揮できていない状況でしたが、令和4年度に「阿須運動公園ホッケー場改修工事」を行い、人工芝の張替え等を行うことができました。

これにより、スポーツ（ホッケー）の根幹である「観る、する、支える」を発揮するべく、「スポーツを通したまちづくり」を達成するため基本方針を定め、積極的に「交流人口の増加」、「地域の活性化」、「競技力の向上」につなげていきます。

また、本市ではホッケー競技について、小学生から社会人までの各年代（カテゴリー）が切れ目なく継続して競技を続けられる環境を整えており、全ての年代（カテゴリー）のレベルが向上しています。

今後、「ホッケーのまち飯能」として、競技人口を増加させつつ、競技力を向上し、世界と戦えるトップレベルの選手を育成することで、子どもたちの目標とする選手や夢が創出できると考えています。

については、各年代（カテゴリー）別の選手が切れ目なく、常時最大のパフォーマンスを発揮できるよう、各カテゴリーの指導者が連携し、ビジョンの統一や発達段階に応じた最適な指導を受けることができる体制を構築するために、専門部会等の情報交換の場を創出します。

本市では、全中学校の保健体育科授業でホッケーを必修化していますので、小学生にいかにかホッケーを体験してもらい、ホッケーに親しんでもらうかが重要となっており、小学生に対して積極的にアプローチしてまいります。

また、「ホッケーのまち飯能」としてまちづくりの一環として推進するためには、行政が主導的に取り組むだけでなくホッケー競技に携わる団体の育成、連携が重要と考えています。

元気で活力のあるまちへ 更なる成果

- ・トップレベルの選手育成
- ・競技力の向上



重点強化
重点普及
(競技人口増加)

観る

「観戦機会の創出」

- ・観戦ツアーの企画
- ・観客席の整備
- ・大会周知 (PR)

する

「活動環境の整備」

- ・競技場整備
- ・練習場所の確保
- ・普及事業の推進

支える

「協力者の確保」

- ・指導体制の充実
(指導者の確保、
情報共有)
- ・競技役員の確保
- ・競技役員の育成

6 「ホッケーのまちづくり」の理念及び基本目標

本市のホッケー競技の現状と課題を踏まえ、「ホッケーのまちづくり」の理念及び基本目標を次のとおり定めます。

【理念】

～ 市民スポーツであるホッケーの普及振興により、
郷土愛を育み、将来の飯能を担う人づくりを進めます ～

【基本目標】

- (1) ホッケー競技を通して、全国から多くの選手と関係者を迎え、交流を盛んにすることで地域の活性化を図ります。
- (2) 小学生から社会人までの各年代のホッケーチームが全国大会で活躍することにより、「ホッケーのまち飯能」を全国に発信します。
- (3) ホッケー競技を「観る」「する」「支える」ことで多くの市民が関わり、市民総ぐるみでホッケーのまちづくりを推進します。

7 「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針

「ホッケーのまちづくり」の理念及び基本目標を達成するため、次のとおり基本方針を定め、取組を推進します。

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 基本方針1 | 特色ある普及事業の創出及び阿須運動公園ホッケー場の活用 |
| 基本方針2 | 全国大会等の誘致及び大会開催への支援 |
| 基本方針3 | ホッケー競技のPR活動 |
| 基本方針4 | 競技力の向上への支援 |
| 基本方針5 | 安全で安心な施設整備及び施設環境の向上 |

基本方針1 特色ある普及事業の創出及び阿須運動公園ホッケー場の活用

■ 具体的な取組

① 特色ある普及事業

- ◆ ホッケー専門指導員を任用し、年間を通して市内の小・中学校の授業や放課後児童クラブ等でホッケー指導を行います。
- ◆ 競技団体と連携し、指導員を派遣します。

② 阿須運動公園ホッケー場の活用

- ◆ 令和4年度改修を行った「阿須運動公園ホッケー場」を活用して、ホッケー教室や競技の観戦機会を創出します。
- ◆ 市民等にルールなど分かりやすく伝える手法を検討し、ホッケー競技を身近に感じ、ホッケーの楽しさや面白さを発信し、普及につなげます。

基本方針2 全国大会等の誘致及び大会開催への支援

■ 具体的な取組

① 全国大会等の誘致

- ◆ 「高円宮杯ホッケー日本リーグ」を関係機関と協議し、誘致に努めます。
- ◆ 小学生から社会人まであるカテゴリーの各全国大会等についても積極的に誘致を行います。これによりホッケー競技の普及拡大と競技力向上とともに、地域の活性化、交流人口の増加を図ります。

② 大会開催への支援

- ◆ 各種大会の開催に伴う準備や運営に人的支援を行います。
- ◆ 各種大会の開催に必要な場合は、財政的な支援を行います。

基本方針3 ホッケー競技のPR活動

■ 具体的な取組

① 公共施設やホームページの活用

- ◆ 公共施設での啓発及び市ホームページを活用し、市内で活躍するチームや選手の情報の周知や大会告知等を随時行います。

② より効果的なPR方法の研究

- ◆ ホッケー競技者の活躍などを周知するため、「ホッケー通信」を発行し、市内の小・中学校へ配布します。
- ◆ 学校関係者と連携し、より効果的なPR方法を検討します。
- ◆ より多くのマスメディアに取り上げてもらえるよう、協力体制を構築します。
- ◆ 競技団体と連携し、相互に情報発信をできる環境を構築します。

基本方針4 競技力向上への支援

■ 具体的な取組

① 競技者等との連携

- ◆ 学校関係者や各カテゴリーの競技者及び指導者と連携し、指導体制を充実するため専門部会等の情報交換の場を創出します。
- ◆ ホッケー専門指導員の派遣を行います。また指導者の支援が、できるよう競技団体と協議を行います。

② 小・中学生への強化の支援

- ◆ 飯能ホッケー連盟へ小・中学生の強化事業を委託します。

③ 交流事業の検討

- ◆ 市外（海外含む）の先進的チームとの合同練習会や交流会等を検討し、市内競技者の競技力向上や魅力ある体験を創出します。

基本方針 5 安全で安心な施設整備及び施設環境の向上

■ 具体的な取組

① 安全・安心な施設整備

- ◆ 競技者が安全で安心して競技が行えるよう指定管理者と協議し、計画的な修繕を行います。

② 施設環境の向上

- ◆ 利用者の満足度が向上する施設にするとともに、各種大会や合宿などがより良い環境で行えるよう指定管理者と協議を行い、施設環境の向上について検討します。

③ 継続的な修繕及び改修

- ◆ 今後、計画的に修繕が行えるよう、国や県の補助金の活用を検討します。
- ◆ 自主財源の確保を検討します。

8 キャッチフレーズ

「ホッケーのまちづくり」を推進していくためには、市内外のより多くの方にこの取組を知っていただく必要があり、この取組を実施することで「スポーツを通じたまちづくり」が達成できると考えています。

スポーツから飯能を元気に、ホッケー競技から飯能を元気にできるよう、これまでホッケーの普及事業やPR事業などで使用してきた「ホッケーのまち飯能」を基本方針のキャッチフレーズとし、方針に定める具体的な取組を進めていくこととします。

【キャッチフレーズ】

～ ホッケーのまち飯能 ～



9 市内チームの紹介

はんのうホッケースポーツ少年団（小学生）

《チーム概要》

ホッケー専門のスポーツ少年団として、平成27年に設立。
「ホッケーの楽しさを知りみんなで全国大会を目指そう！」を活動方針として、毎年8月に開催される全国スポーツ少年団交流大会に出場している。

《主な過去の成績》

- ・ 全国スポーツ少年団交流大会 出場
- ・ U-12 ホッケードリームキャンプ オールスター戦 選手輩出



あがのスポーツ少年団（小学生）

《チーム概要》

東吾野スポーツ少年団、西川スポーツ少年団、スリーベルズスポーツ少年団（吾野）の歴史ある3団体が統合され、平成24年から現在の団名で活動開始。

卒業生含む、様々な世代で楽しく活動を行っている。



飯能市立美杉台中学校 ホッケー部（中学生）

《チーム概要》

市内唯一の部活動。過去、日本代表U-16ジュニアユースを輩出。

《主な過去の成績》

- ・ 全日本中学生ホッケー選手権大会出場
- ・ 都道府県対抗1人制大会 第3位



はんのうジュニアホッケークラブ（中学生）

《チーム概要》

中学生になってもホッケーが続けられるよう平成19年に発足したクラブチーム。過去、日本代表U-16ジュニアユースを輩出。また、出身者から日本代表選手を輩出。

《主な過去の成績》

- ・ 全日本中学生ホッケー選手権大会 出場
- ・ 全日本中学生ホッケー選手権大会関東ブロック大会 3位
- ・ 都道府県対抗11人制大会 第3位



埼玉県立飯能高等学校 ホッケー部（高校生）

《チーム概要》

公立高校の部活動で、全国大会の常連校。過去には、U-18・U-17日本代表選手を輩出している。令和5年度から飯能南高校と統合し、「埼玉県立飯能高等学校」となる。

《主な過去の成績》

- ・ 第64回全国高等学校ホッケー選手権大会 ベスト8
- ・ 第54回全国高等学校選抜ホッケー大会 ベスト16



埼玉県立飯能南高等学校 ホッケー部（高校生）

《チーム概要》

公立高校の部活動で、全国大会の常連校。過去には、U-18・U-17日本代表選手を輩出している。令和5年度から飯能高校と統合し、「埼玉県立飯能高等学校」となる。

《主な過去の成績》

- ・ 男子 85回全国高等学校ホッケー選手権大会 出場
- ・ 第54回全国高等学校選抜ホッケー大会 ベスト16



聖望学園高等学校 ホッケー部（高校生）

《チーム概要》

私立高校の部活動で平成 24 年度創部。インターハイ等の大会出場を目指す高校男子チーム。



駿河台大学（大学）

《チーム概要》

男女共にトップリーグである高円宮杯ホッケー日本リーグに参戦する大学チーム。同大会では、フェアプレー賞を数回受賞している。

埼玉ホッケー協会や飯能ホッケー連盟等の関係機関からの要請・協力により、平成 11 年に女子が創部。平成 15 年に男子が創部。

《主な過去の成績》

- ・ 高円宮杯ホッケー日本リーグ 出場
- ・ 全日本学生選手権大会 ベスト 8
- ・ 全日本大学王座決定戦 ベスト 8
- ・ 関東学生ホッケーリーグ（春季・秋季） 第 3 位



ALDER 飯能（社会人）

《チーム概要》

平成 17 年埼玉国体成年男子チームを継承するクラブとして「飯能市ホッケークラブ」を設立。平成 22 年より愛称である「ALDER 飯能」で活動を始め。ALDER（アルダー）とは、榛の木の和訳。

活動理念は「～個々の自立とチームワークの醸成～すべてのサポーターに感動を！」

- ① 自立した考えのもと、限りないチームの可能性を追求する。
- ② 地域に愛されるクラブとして「飯能」を全国に発信する。
- ③ ホッケーを通して青少年の健全育成に寄与する。

チームから日本代表を輩出しており、トップリーグに参戦するクラブチーム。

《主な過去の成績》

- ・ 第 96 回全日本男子ホッケー選手権大会 4 位
- ・ 高円宮杯 2022 ホッケー日本リーグ（H1） 4 位
- ・ 2022 年度 全日本社会人ホッケー選手権大会 4 位



H・F・C-HANNO（社会人）

《チーム概要》

社会人女子のクラブチームで平成7年設立。過去には、日本代表選手を輩出。
HFCはHockey Friend Clubの略。

《主な過去の成績》

- ・ 第27回全日本社会人ホッケー選手権大会 第3位
- ・ 全日本女子ホッケー選手権大会 出場



飯能ホッケークラブ（社会人）

《チーム概要》

昭和39年設立。60周年を迎える社会人のクラブチーム。



ホッケーのまち飯能



飯能市イメージキャラクター「夢馬(むーま)」

「ホッケーのまちづくり」に係る基本方針 改訂版
令和5年3月 策定

発行 飯能市教育委員会

編集 飯能市教育委員会教育部スポーツ課

〒357-8501 飯能市大字双柳 1 番地の 1